

平成 30 年度援護関係予算案の主要事項

	【29 年度予算】	【30 年度予算案】
援護関係予算総額	26,117 百万円	→ 23,681 百万円
1 援護年金等	10,436 百万円	→ 8,881 百万円
	(受給人員 5,884 人 → 5,002 人)	
2 遺骨収集事業等の推進	2,443 百万円	→ 2,380 百万円
(1) 硫黄島遺骨収集事業 ・外周道路外側等の掘削経費等	1,396 百万円	→ 1,372 百万円
(2) 南方・旧ソ連地域遺骨収集事業	576 百万円	→ 719 百万円
ア 現地調査 ・派遣班数増加に伴う増	176 百万円	→ 266 百万円
イ 遺骨収集 ・派遣班数増加に伴う増	273 百万円	→ 327 百万円
ウ 法人運営経費	127 百万円	→ 127 百万円
(3) 海外公文書館の資料収集 ・集中的な取組期間の終了に伴う減	342 百万円	→ 63 百万円
(4) 遺骨鑑定体制の強化 ・DNA 鑑定機関の増強等に伴う増 ・遺骨鑑定人の派遣体制の構築に伴う増	108 百万円	→ 193 百万円
(5) 遺骨・遺留品伝達 うち、遺留品調査の迅速化に係る経費	21 百万円	→ 33 百万円 12 百万円
3 戦没者慰霊事業等	575 百万円	→ 572 百万円
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	151 百万円	→ 151 百万円
(2) 慰霊巡拝等	424 百万円	→ 421 百万円
ア 慰霊巡拝	87 百万円	→ 87 百万円
イ 政府建立慰霊碑の補修等	52 百万円	→ 54 百万円
ウ 海外・国内民間慰霊碑の管理	26 百万円	→ 22 百万円
(ア) 海外民間建立慰霊碑	9 百万円	→ 10 百万円
(イ) 国内民間建立慰霊碑	16 百万円	→ 12 百万円
エ 慰霊友好親善事業	259 百万円	→ 259 百万円

4 昭和館・しょうけい館事業	919百万円 → 644百万円
（1）昭和館	743百万円 → 467百万円
ア 昭和館の運営に係る経費	454百万円 → 467百万円
イ 昭和館の防災機能強化に係る経費【前年度限り】	289百万円 → 0百万円
（2）しょうけい館の運営に係る経費	176百万円 → 177百万円
5 戦争の経験の次世代への継承（再掲）	31百万円 → 29百万円
（1）証言映像の収録（戦傷病者、中国残留邦人等）	13百万円 → 13百万円
（2）戦後世代の語り部の育成等	17百万円 → 16百万円
6 中国残留邦人等の援護等	10,770百万円 → 10,422百万円
（1）中国残留邦人等に対する支援等	10,562百万円 → 10,205百万円
ア 支援給付の実施等	10,538百万円 → 10,178百万円
イ 中国残留邦人等の介護に係る環境整備	24百万円 → 26百万円
（2）抑留者関係資料の取得及び特定作業関係	160百万円 → 158百万円
（3）戦没者等援護関係資料の移管・整備	49百万円 → 60百万円

※ 百万円単位で四捨五入しているため、各欄の増減が一致しない場合がある。